

『白神山うど』の出来栄を競う 第14回山うど共進会



▲ 展示された農家自慢の山うどを見る参加者

JAあきた白神山うど部会（桜田和浩部会長）による、山うど共進会が2月21日、能代市のプラザ都で開かれ、農家自慢の山うどがその出来栄を競いあいました。

『白神山うど』の品質向上と産地強化を目的に、14年前から行われている山うど共進会。今年は管内から59点の出品が寄せられ、軟白の色合いや全長の揃いなどを中心に審査した結果、伊藤秀司さん（能代市・築法師）の＜東武鯉玉2号＞がみごと最優秀賞に選ばれました。また優秀賞として、茂内美世子さん（能代市二ツ井町・鎌谷）＜東武鯉玉2号＞と山崎金作さん（能代市・丑越）＜東武鯉玉2号＞がそれぞれ選ばれました。

新年度の農業政策について 全職員の認識の共有化を図る



▲ 平成24年度の農業政策に理解を深める職員

JAでは平成24年度における農業政策について、正しい認識を全職員が共有できるよう、新農業政策研修会を2月22日に能代市工業団地交流会館で開催しました。

はじめに営農経済事業本部の坂本常務が「変化していく農業政策を職員一人一人が理解することで、組合員からの問い合わせにきちんと対応してほしい。」と挨拶しました。その後担当者から、平成24年産米の生産調整や農業者戸別所得補償制度などについて説明が行われました。参加した職員は「新しい農業政策への理解を深めることが出来たので、問い合わせの際はもちろん、今後の業務にも活かしていきたい。」と話していました。

今冬の大雪被害に対応して JAで『雪害対策支援資金』の取扱を開始



▲ 大雪により被害を受けたビニールハウス

県内では昨年末からの大雪の影響で、人や建物、農林水産関係に多くの被害が出ています。人的被害はすでに200名を超え、平成18年の豪雪被害に迫る勢いです。また農林水産関係についても、農作物と農業施設の被害が1億円を超えており、今後も増えていくと予想されます。

このような状況を加味し、JAでは『雪害対策支援資金』を設け、大雪により被災した農機具や農業施設（ビニールハウスや農作業場など）を所有する組合員農家に対し、取得・改修に必要な資金を支援しております。

該当される方は、JA各支店へお問い合わせください。

女性部員同士の交流を図る 女性部冬期講座が閉講



▲ 仲間同士で作りかたを教え合う部員たち

JA女性部二ツ井支部（工藤貞子支部長）による、恒例の女性部冬期講座がJA生活総合センターで開催し、最終日となった2月7日には、94名の女性部員が参加しました。

講座では手芸として、①がまロペットボトルホルダー②反射ループ亀さんストラップの作成に挑戦。部員たちがみごとな縫製技術を駆使して、思い思いの作品に仕上げていきました。

またこの日は閉講式も兼ねて行われ、計5回の冬期講座が無事に開催できたことを祝うとともに、すべての講座に参加した64名を表彰しました。部員たちは講座の終了を惜しみながら、来年度の開催を楽しみにしていました。